

# 令和6年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※評価(肯定的意見) A:80%以上 B:65%以上 C:50%以上 D:50%未満 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

教育目標	重点目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	資料	R6			成果と課題(自己評価)	改善策	評価	学校関係者評価
						平均	%	評価				コメント
『自立型人間の育成』 ③②① 地ご自 の人愛 ツ・未 が来 自を切 効き力 で開 く、主 自己 変と 肯容 定で 行感 き力 のを 高生 持つ い徒 徒	(54321) ( ) ( ) ( ) 地職人望 域業間ま やス性し 教社キ、 い育会 ル人生を にを間活 開高力習 育かめを 慣活れる 高を動 た教め確 教育る立 基育たし 盤め、と の学し ぶ、づ 意当 欲事 りを者 教高 育意 識、を 確持 かな、 学安 力を心 ・育安 む全 教育 な学 校づ くり	保健	・生徒の健康状態を的確に把握し、それを基に生徒自らが健康管理の意識を高めることができるよう指導する。 ・関係機関等との情報交換を密にして連携した支援を行う。	・先生や保護者に自分の悩みや困りごとを伝えることができると答えた生徒	生徒アンケート 15	3.0	78%	B	生徒の評価が8割に届いてはいないが、概ね高評価であると考えている。	・各クラス、部活動等における面談の場面で、教員が生徒の悩み事や困り事の有無を聞き、引き出すような声掛けを心がけていけるように、さわやか委員会から発信する。 ・SC便りの回数を増やし、心身の健康維持に関するメッセージを伝える。 ・専門相談機関の提示	A	・保護者アンケートの評価が高いが、評価をされている具体的内容や、アンケート以外で学校が把握していることなどがあれば知りたい。
			・学校の教育相談体制を評価している保護者	保護者アンケート 12	3.0	84%	A					
		図書人権	・人権・同和教育についてのLHRを実施し生徒の自尊感情や人権感覚を育てる。	・人権意識を持って行動していると答えた生徒 ・生徒の人権意識が高まっていると感じている保護者 ・当事者意識を持って行動していると答えた生徒 ・生徒の当事者意識が高まっていると考える保護者	生徒アンケート 3	3.3	90%	A	徐々にではあるが、生徒の人権意識の高揚がうかがわれる結果であった。今後も継続的に人権意識や感覚を高める働きかけをおこないたい。	・HRでの使用教材の改善や充実を図り、より一層生徒の心に訴えかけたり、気づきをもたらす授業が展開できるようにしたい。	A	・当事者意識について、生徒と保護者アンケートの評価に差がある項目については、検証が必要である。
					保護者アンケート 3	3.1	91%	A				
					生徒アンケート 2	3.1	83%	A				
					保護者アンケート 2	2.9	76%	B				
		教務	・「主体的・対話的で深い学び」の実現、ICT機器を活用した授業の研究に努める。 ・生徒による授業評価を行い、教員・生徒双方から授業を改善する環境をつくる。	・授業(学習)に主体的に取り組んでいると答えた生徒 ・ICT機器(タブレット等)を普段から学習に活用していると答えた生徒 ・生徒の学習意欲が高まっていると考える保護者	生徒アンケート 4	3.2	89%	A	本校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、ICT機器の活用や生徒による授業評価を取り入れながら、より良い学習環境の構築に努めてきた。しかしながら、今回の評価を受け、保護者の方から見て生徒の学習意欲向上という面で十分な成果が得られていない部分があることを真摯に受け止めている。	学習意欲を高めるためには、授業の工夫だけでなく、生徒一人ひとりが学ぶ意義を実感できるような仕組みや、学びの成果を実感できる機会を増やすことも大切だと考える。今後は、授業改善に加え、探究活動や実社会とつながる学びを充実させるなど、より生徒の興味を引き出し、主体的に学べる環境づくりを進めていく。	A	・「主体的・対話的で深い学び」の実現について、高校生は、主体的に学ぶという意識を育てる必要があるのだと思う。主体的な意識づけについて、学校での工夫や課題解決のための分析と成果などを、共通理解を持って進めていけると良い。 ・ICT機器については、保護者は具体的な活用方法を把握していない事もあり、学校任せになっている。生徒の家庭での具体的な活用方法が知りたい。 ・学習意欲について、生徒と保護者の評価にかなり差があるので、検証の必要がある。生徒の頑張っている様子が伝わる工夫があれば良いのではないかと。
					生徒アンケート 6	3.4	84%	A				
					保護者アンケート 4	2.8	68%	B				
		生徒	・安心して過ごせる生活環境を整える。 ・校内外でのマナー(通学マナー等)を向上させる。 ・全教員による登校時挨拶運動と適切な声掛けを行う(始業5分前登校)	・学校の生活指導を評価している保護者 ・全校生徒の出席率 ・全校生徒の非遅刻率	保護者アンケート 8	3.0	84%	A	・毎朝の登校指導(昇降口や登校路)において、小まめに生徒に対して声かけや指導を実施し、本校のルールやマナーについて指導してきた。また、商業部と連携し、ビジネスマナーの時間を活用し社会に通用する「自立型人間の育成」を目指した指導を行うことができた。 ・学年部と連携し、早めに生徒との面談を実施し、生徒が抱える問題を早期発見、早期解決を心がけた。 ・様々な事情を抱える生徒がいる中で、安心安全な学校づくりを目指し、安易に学校を休まないような指導を継続して実施したい。	・年度初めの集会等で校則を含めたルールやマナーについて一斉指導を実施したい。 ・登校指導を生徒会とより連携し生徒の当事者意識を高める工夫をしたい。 ・学年部と連携し、生徒の欠席や遅刻等の原因を早期に把握することで生徒支援、生徒指導につなげていく。	A	
					統計資料		98%	A				
					統計資料		99%	A				
		進路	・進路指導計画に沿った系統的な進路指導を実践する。 ・「進路の手引」を年度初めに配布し、LHRや進路説明会等で活用する。 ・全教職員の協力体制のもと、補習、小論文、面接等の指導を行う。	・学校から提供される進路情報を、自分の進路実現のためにしっかり活用していると答えた生徒 ・学校から提供される進路情報を、積極的に活用している保護者 ・生徒の進路実現のために、積極的に助言している保護者 ・学校の進路指導を評価している保護者 ・在学中の就職内定率 ・在学中の進学合格率	生徒アンケート 13	3.0	79%	B	3年生の面接・小論文指導は、全教職員が協力して行うことができた。また、就職・進学対策や学力育成のために、年間を通して進路補習を実施した。学年部と協力して、1年生は自己理解・キャリア研究の活動を行い、2年生は分野研究や志望具体化のための活動を行っている。3月には45社に参加していただき1,2年企業説明会を開催予定。大学進学や看護職等を志望する生徒に対しては、それぞれ説明会・座談会を開き、公務員志望者対象に年間を通して対策講座を実施した。「進路の手引」は、保護者に進路説明会や面談で配布し、生徒も特別活動や説明会等で活用した。 求人依頼企業が増えていることから、ミスマッチをなくするための情報収集は課題である。進学者は、多様な入試制度を利用し、検定や資格、課題研究の取り組みも生かして合格をいただいた。近年は、4年制大学の希望者が増えており、総合型選抜の受験者が増えていることから、早期からの進路対策が課題である。	進路行事等、活動の実施内容については、進路希望状況等も参考に、学年部と協力して検討し充実を図る。実力テストを進路・学習指導にさらに生かせるように、前後の指導や情報活用等について研究し、学年部と共有する。 「進路の手引」などの進路資料は、保護者にはPTA行事や面談で確実に配付し、情報の活用につながるようにつなげていく。生徒が情報を進路実現に役立てられるように、1年次から活用機会を計画的に設ける。 教員は企業訪問や情報交換会で企業理解を深め、生徒は応募前見学、ジョブフェア参加等の機会を活用する。進学希望者には学校見学会等への参加を促し、医療・福祉系については早い時期からの体験学習への参加を促す。特に3年の進路対策を早めて多様な進路の実現に対応する。	A	・進路情報について、生徒、保護者の評価がBとなっている。資料をどう活用しているのか知りたい。保護者に届いていないのではないかと懸念がある。活用の仕方など、理解していただける工夫が課題である。
					保護者アンケート 9	2.7	69%	B				
					保護者アンケート 10	3.1	85%	A				
					保護者アンケート 11	3.1	88%	A				
					統計資料		100%	A				
					統計資料		100%	A				
		図書	・生徒への利用指導及び図書館からの情報発信を充実する。 ・オリエンテーション、イベント等を通じて読書習慣の定着を図る。	・図書館を活用(学習・探究・読書等)していると答えた生徒 ・「毎月の図書館便りや掲示物」を、自分の視野を広げるために活用していると答えた生徒	生徒アンケート 10	2.0	22%	D	図書館利用が一部の生徒に限られがちな状況や配布物・掲示物もあり生徒の目にとまらない、もしくは読まれない状況があるのではないかと考えられる。	今までのような図書館利用に加え、図書館に来館しなくても、携帯端末から活用できる図書館といった従来にならぬ視点から、新たな図書館の活用方法を模索する必要性を検討したい。そのため、新規導入した図書館HPと、HPから利用できるカーリル学校図書館蔵書検索プログラムの有効性を次年度以降3年間をめぐりに検証してみたい。また、発行様式を変更追加した、新しい「図書館便り松商Library Letter」もさらにバージョンアップして行きたい。また、HP内の「リンク集」ページにて、課題研究・未来創造探究・進路に活用できるHPのリンクを収集・公開している。従来の紙媒体の資料提供に加え、電子データの提供という面からも、授業支援を行っていききたい。	C	・図書館の活性化について、ICT教育の推進と図書館教育をリンクさせるということも考えられる。この組み合わせで上手くいっている先進的な実践例あれば知りたい。 ・どのような図書館なら活用してみたいか、生徒アンケートを取るなど、必然的に生徒が活用できるよう工夫をするといいたいのではないかと。
					生徒アンケート 16	2.3	30%	D				

## 令和6年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※評価(肯定的意見) A:80%以上 B:65%以上 C:50%以上 D:50%未満 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

教育目標	重点目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	資料	R6			成果と課題(自己評価)	改善策	評価	学校関係者評価	
						平均	%	評価				コメント	
『自立型人間の育成』 ③②① 地ご やろ の人 をコ 生愛 しブ 未 が来 自 上 を 己 向 効 き り 開 感 、 主 勇 自 己 肯 定 で 行 力 を 高 生 持 つ 生 徒 徒	(54321) 地職人望人 域業間ま権 社キ、い育 会ル人生を にを間活教 開高力習育 かめを慣活 れた高を動 たし盤の立 め、と 心ぶ、 つ意当 く欲事 り者意 教育 、確 持か な、 学安 力心 を育 む全 教育 学 校 づ く り	学年	・生徒面談や保護者面談を充実させ、具体的な見通しが持てるように支援する。 ・生徒理解に努め、生徒がお互いを認め尊重することができる集団になるよう指導する。	・学級活動(ホームルーム活動やクラス役員、係)、または生徒会の活動に主体的に取り組んでいると答えた生徒	生徒アンケート	8	2.9	77%	B	【1年生】 自分事として捉え、主体的に活動できる生徒が多く、概ね満足できる。入学当初や学科選択に向けて細やかに面談を実施し、生徒の考えを受け止めることができた。自身の考えを保護者とも共有することができた。保護者との連携を今後も継続していく。 【2年生】 面談や日常のコミュニケーション等を通じて、生徒・保護者との意思疎通をはかっており、概ね肯定的な意見が多い結果となっている。諸活動においては、自らの役割や取り組みに意欲的な生徒も多いが、一部に主体的な取り組みができていない生徒も見受けられる。 【3年生】 担任を中心に、生徒面談や保護者面談を密に行い、生徒理解に努めた。ホームルーム活動について、学年集会や、講演会等が中心となり、クラス活動などの時間が少なかったため、生徒自身の主体的な活動の時間を設定することができなかったように思う。ただし、定期的な学年集会の実施や学年通信の発行を行うことができ、学年としての集団づくりに取り組むことが出来た。	【1年生】 ・活動内容や活動量等、生徒が主体的に取り組めるように改善していきたい。 ・担任や学年会、部活動顧問と連携し、生徒が自身の考えを発信できる場を増やしていく。 ・家族だけでなく、生徒同士で自身の学習目標や進路など、語れる集団を目指したい。 【2年生】 面談だけでなく、日常のコミュニケーションにおいて生徒の状況を細やかに把握し、必要があれば保護者への連絡をおこない、家庭と連携しながら生徒理解を進めていく。 学年集会やホームルームでの指導により、学級活動や生徒会活動の意義を生徒一人一人に認識させ、前向きに諸活動に取り組んでいける雰囲気を作り出す。 【3年生】 クラスでの活動を通して、生徒が主体的に活躍できる場を増やしたい。学級内での係や委員会の仕事の中には、実際の活動内容が曖昧なものもあるため、生徒にとって分かりやすく、活動しやすい内容に精査したい。	A	
				・担任(部活動顧問等を含む)との面談などの機会を通じて、自分の考えや思いを伝えていると答えた生徒	生徒アンケート	14	3.2	84%	A				
				・家族に自分の考えや思いを普段から伝えていると答えた生徒	生徒アンケート	18	3.2	80%	A				
		生徒	・地域貢献活動(ボランティア活動・地域交流)への積極的な参加を促す。	・今年度、ボランティア活動に参加したと答えた生徒	生徒アンケート	19	2.1	28%	D	・魅力化推進部との連携を今後はより一層強化し、校外で活躍できる生徒の育成を目指していきたい。 ・部活動加入率は86%であった。社会性を学ぶ貴重な場として捉え今後も、生徒の成長を促せられるような部活動を目指し、90%以上を目標とした。	・ボランティア活動等の案内掲示をより目に留まるよう掲示場所や仕方を工夫していく。また、生徒の個人端末等にも案内を配信し生徒への周知を強化したい。 ・各部の顧問と連携し、より良い部活動運営に努め、部顧問会の充実を図りたり。	C	・ボランティアについては、主体的ではない場合もあり、準備された活動に参加するスタイルであったり、地域を含めて依頼する側も生徒がしたいことに目を向けることも必要であると感ずる。 ・生徒は、人の役に立ちたいという気持ちは持っていると感じる。きっかけ作りが大切。地域の受け止めと生徒の受け止め方にズレがあるのではないかと。地域での評価は高いと感じる。
				・部活動加入状況	統計資料			86%	A				
		保健	・毎日の清掃活動や生徒保健委員会による取り組みを通して、美化活動を推進させる。	・清掃活動にしっかり取り組んでいると答えた生徒	生徒アンケート	9	3.5	92%	A	生徒の自己評価は高いが、掃除が行き届いていない箇所が見受けられる。	掃除方法や役割分担などを具体的に示し、生徒が自ら清掃に取り組めるように引き続き監督・指導を行っている。	A	
		商業	・効果的な検定補習・集中講座の検討と実施 ・松商だんだんフェスタ、未来創造プロジェクト、課題研究など地域連携の活動を展開する	・資格取得に主体的に取り組んでいると答えた生徒	生徒アンケート	5	3.2	80%	A	【資格取得】 ・生徒自身が資格取得に意欲的に取り組めたと評価しているが、合格率は年々低下している。生徒がより一層意欲的に、自信をもって取り組めるよう指導力の向上が必要である。 ・全商検定1級3種目以上の取得者は41名。3年生全体の21%にあたる。1級6種目取得者が3名、5種目が4名、4種目が14名であった。 ・日商簿記2級取得者が16名、基本情報が4名など、意欲的に上級資格も取得した。 【ビジネスマナー・松商だんだんフェスタ】 ・ビジネスマナーでは、挨拶練習や礼の角度など、細かなところの指導を実施することができた。またビジネスマナーの時間に、だんだんフェスタの企画内容について全校生徒、全教職員で情報共有を図ることができた。 ・今年の松商だんだんフェスタでは、来場者数1万人、お客様満足度100%の達成を目標に企画・運営を行った。来場者数は8,962人、お客様満足度は99%と、目標達成はできなかったが、来場者数は昨年度より1,833人増加した。 【ビジネスマナー・松商だんだんフェスタ】 ・ビジネスマナーは、生徒主体で運営できたが、挨拶練習での声の大きさや、縦横揃った整列、揃ったお辞儀には課題が残った。来年度はもっと有意義で活発なビジネスマナーへと改良する。 ・松商コレやレストランの復活がフェスタをより一層華やかにし、集客力を高めた。来年度は、人員のアンバランスを見直すとともに、商品の仕入計画から販売促進まで、より一層生徒自身が思考錯誤して取り組めるよう工夫し、生徒のより一層の成長を促したい。	【資格取得】 ・検定の合格率は低下している。熱心に取り組む生徒のいる一方で、諦めてしまう生徒も見受けられた。生徒が希望を抱きながら試験日を迎えられるよう、計画的で熱心な指導が必要と考えている。 ・日々の授業を見直し、効果的な指導方法を研究する。また、検定ロードマップを見直し、合格率が高まるスケジュールに変更し、多くの生徒がより多数の資格を取得できるよう改善する。	A	・資格取得率について、全商検定1級3種目以上の取得率が低下している理由や日商簿記検定2級の取得状況などが気になる。商業高校として資格取得は学習の証となるので、来年度に向けてぜひ推進していただきたい。 ・今年度は、フェスタでの接客の様子がとても積極的に生き生きとしていたと感じた。久しぶりで大変だったと思う、お疲れ様でした。
				・生徒が資格取得に意欲的に取り組んでいると思う保護者	保護者アンケート	6	3.1	81%	A				
				・学校の資格取得に対する支援体制を評価している保護者	保護者アンケート	5	3.3	92%	A				
				3年生の全商検定1級3種目以上の取得率	統計資料			21%	D				
				・ビジネスマナーを実践していると答えた生徒	生徒アンケート	7	3.3	91%	A				
				・「松商だんだんフェスタ」に主体的に取り組んでいると答えた生徒	生徒アンケート	11	3.6	93%	A				
				・「松商だんだんフェスタ」を評価している保護者	保護者アンケート	14	3.7	98%	A				
		魅力	・「未来創造探究」を通じて生徒の主体変容が進化する教育内容を研究・実践する。 ・三者連携事業・高大連携推進員などを活用し、生徒に外部の活動の情報を提供し、さまざまな地域・探究的活動への積極的な参加を促す。	・「地域、企業、大学等と連携した事業」に主体的に取り組んでいると答えた生徒	生徒アンケート	17	2.5	45%	D	本校における様々な外部連携系活動を総合しての生徒評価であるとする。活動を行う生徒・それをサポートする側の教員ともに、活動の目標・目的が今ひとつはつきりしないこと、教員の生徒に対する伴走、支援が充実していないことなどが主たる要因であると推察する。	学校設定教科「未来創造探究」において、教員の伴走スキル、協働性を高める仕掛けを行う。活動内容としては基本的な探究手法を指導する場面を持ちながら、生徒の探究学習に対する理解力を伸ばし、自身のキャリアのために主体的に活動に取り組む姿勢の涵養を目指す。	C	・生徒評価が低い理由として、生徒が忙しいということも関係があるのではないかと感じる。 ・地域や三者連携などに対して、生徒が参加している例も多いと思うが、生徒と保護者アンケートの評価に大きな差があり、不思議に感じる。生徒の評価はもう少し高くても良いのではないかと感じる。検証が必要である。 ・三者連携事業の推進をしたい。良い実践もあるので、活用してお互いに良い経験が得られるようにしたい。
				・本校が行っている体験的・実践的な取り組み(大学・企業・地域と連携した活動)を評価している保護者	保護者アンケート	13	3.4	92%	A				